

して尙各月に配當せる問題は次の如し。

十一月 鬭爭財産商業の本能に顯はれたる遊戯の事實
(一)敵手的遊戯・鬭爭的遊戯、眞の鬭爭等が直接に兒童教育上に及ぼす價值。人類歴史に於ける鬭爭の位置
(二)兒童の物品蒐集の價值。人類歴史に於ける財産的
感覺發達の位置。(三)商業の本能發達の價值。其人文
との關係。

十二月 宗教及靈魂主義 (一)靈魂主義が兒童に有する位置。(二)其宗教との關係。社會進化に於ける宗教の意義。

一月 家族 (一)原始的家族生活が近世社會の共同及分業の源をなす所以。(二)兒童が人形其他相互との遊戯に於て、此本能を顯はす方法。

二月 社會 (一)原始の社會的遊戯にして、現今尙存在するものは何か。(二)人生各時期を通じて行はるる社會的遊戯の發達の線路を説明せよ。(三)兒童の精神の道德的發達に於ける社會的遊戯の價值。

審美學飾裝舞踏音樂唱歌。(一)審美學が教育上に占むる位置(二)幼兒に對して音樂、運動、美術、文學等を課するには如何にして之を定むるか。(三)凡べての審

美的發表の形式は教育上同一の價值を有するか。若し然らずとせば、其區別如何。(牧羊生)

新刊紹介

●●●●●
○女子書翰文 全二冊 岡田起作君編并書

女子書翰文範五十有餘を擇みて揮毫せられたるもの、作文を學ぶ傍、習字の稽古をなすに適當せるものなり。字形も至極、穩にして且つ文章も宜く。机上の友として進むるに躊躇せず。(寶捌所金昌堂)

○子守歌と手毬歌 第一集 小島芦穂編

在來の子守歌及手毬歌等の、如何に子供等の幼稚なる心意に影響を興ふるかを思は、今日それが改良に最急務なることは誰しも認むる所なれども去りとて、未だ之に着手せる人少きは、陰に遺憾とせし所なり。本書は在來のものより其善長なるを擇び野卑なるを改め、或は新に作りて、一々樂譜を附したるものなり。未精讀せざりしも、宛に角今日の急務に應じたるものといはざるを得ず。(發賣所大阪市上小唐崎町第八番屋敷島林南強堂)

○子守教育法 信濃教育會編纂

子守教育の必要漸く認められ所々に實施を見るに至れる今日、此の如き書の出でたるは、吾人の深く喜ぶ所なり。本書の内容は、

第一編序論 第二編概論 第一章子守教育施設の方法及び教科程度

第二章組織 第三章設備 第四章子守取扱法 第二編教材論：讀
書：修身：作文：育兒

所載町譯製本優美、刻下必要の良書なり。(定價三拾錢 發行所金港堂)

○國民心理學 國民教育學會編

一個人を教育するには、其個人の心情の研究の必要なるが如く、國民を教育するには、又其國民の心情を研究するを要す。最近教育學の風潮は個人主義より漸く社會的、國民的主義に移り來りしに、其基礎を作る所の國民の心情を記載せる書籍の未だ我國に顯はるゝことなかりしは、何人も等しく遺憾とせし所なりき。本書は現今有名なる佛國心理學の大家ルボン氏の著書に依りて叙述せるもの、吾人は此種の著書の嚆矢として歡迎し、斯道研究者に勸むるものなり。(定價五拾錢(發行所金港堂))

○新家政學 全二冊 下田歌子君著

女子師範學校高等女學校教科書として編述せられたるもの、上巻には總論より起りて家内衛生家事經濟飲食衣服住居等に及び下巻は主として育兒教育養老看護交際避離娣婢使役等を記せり、著者は永く華族女學校に於て自教授せられ且つ育兒等に付きては實際經驗せられたる者を掲載せられたりと云へば一家に主婦たらん人々には必讀の書籍なるべし(定價上四十五錢下五拾錢 發行所金港堂)

○兒童教授論 全二冊 津田元德君著

細評の後日に譲るべきこととして先づ本書は著者が某地に於ける講習會に於て講述せられたるものを訂正して出せるものなり。著者は方今の教授が兒童に適切ならず、敏活ならず、効果の擧らざるを以て一汎の通弊として之等を匡正せんが爲め方今の教授に對し批評的の眼光を

以て著述せられたるもの、前篇に於ては汎論を述べ後篇に於ては各論に渡れり。多少教授學に付きて學びたらん人々は好良の參考書たるべし。

○とんな 第一號 大日本女學會發行

女子教育進歩の兆として見るべきは實に本年に於ての女學雜誌の増刊なり。博文館の女學世界、本會の婦人と子どもが本年に至りて新に生れ出でたるに際し更に女學會より本誌を出だせり各欄論說、學藝、修身、齊家世務、譚草、詞藻、雜誌、時事、彙報等に別ち、さすかに當世のお顔摘を以て充溢せり紙質製本とも優良、吾人は切に健全の生長を祈る。(毎月一回、定價十五錢)

○評釋界 第一期第一號 四海堂發行

本年一月を以て出でたる文學雜誌にして、和歌、歌出、獨詩、漢詩、漢文俳句、英詩、謡曲國文、俗語、戲曲等を評釋し、他に時文、小論、懸賞文等あり。文學を修むる人々には缺くべからざる伴侶なるべし。只だ少しく吾人の希望を云は、評釋類は後に各一冊に綴り合はして保存すべき體裁に出来れば、今少し紙質を良くしては如何と思へど、之とても定價一廉なれば致し方なかるべきか。とに角有徐有樹の雜誌なり。(月一回定價八錢)

○交通世界 第一號 交通世界社發行

又本年に至りて新に出たるもの、由來旅行ざらひなる我邦人には至極必要の資料たるべし。卷直には風景の寫真、葉葺する所論說には交通機關、旅行、孤獨と交通、時言に道路と文明其他訪問、雜誌、文藝、紀行、小説、案内、彙報等頗賑かなり(月一回 定價十錢)

